



2019年（第17回） 三首都交流プログラム

参加者感想文

目次

メンバー	P.1～16
指導者	P.17

『2019 BETOSE 三首都交流プログラムに参加して』

墨田区立両国中学校 1年

色々学べた6日間であったと思う。

このプログラムでは、一番年下で正直自信がなく、みんなと仲良くできるかなと、ずっと思っていた。しかし、みんな明るく話しかけてくれ、すぐに仲良くなれてとてもうれしかった。

プログラム中もとても気にかけてくれて、元気がないと休憩させてくれたり、よく見てくれていて、とても安心ができる仲間だと思った。

他の国のメンバーも、臨機応変に対応してくれて、すぐに仲良くなれて、とても嬉しかった。特に韓国メンバーは行きバスの中から直ぐに話しかけてくれてとても仲良くなれたと思う。

中国メンバーとも夜、トランプや、UNOをやったりと直ぐに仲良くなれて、とても良かった。色々なところに訪問していく中で「ここは、こういうところだよ」、「このようところがいいところだよ」というようにわからない所を教えてくれたりしてくれてとてもいい人達だなと思った。特に、5日目には、「〇〇が欲しい」ということをちゃんと聞いてくれて、直ぐに探しに行ってくれたことが本当に嬉しかった。

「こうしたい」と思ったことをやらせてくれる中国人、韓国人の皆さんは本当に優しく接してくれるよき仲間であったと思う。

送別会では、今まで一緒に生活してきた仲間たちと、文化紹介をして盛り上がったし、終わったあとでも、一緒に写真を撮ったり、お土産をもらったりと、とても別れるのが名残惜しい会となった。本当にしっかりと受け入れてくれることが写真を撮ったりする中でよくわかった。こんなに優しく接してくれる仲間たちと出会えたことにとっても嬉しく思う。離れていても一生忘れない友達になれてとても本当に嬉しかった。

日本メンバーとは今までであったことのないほどの仲間となれてとても嬉しく、仲良くできた。年齢に関係なく対等の人間として接してくれたということがとても嬉しかった。だからこそ自分も心を開けた仲間であるとよく感じた。

このプログラムで学べたことは、3つある。1つ目は「優しさ」というところである。

友達が悲しんでいた、困っていたりした時に、声をかけてあげることをしてあげたり、一緒に喜んだり、悲しんだり、共感してあげたりすることが大切であると思う。以前、友達がものづくりで困っていた時に、手を差し伸べてあげることが出来なかったことがあった。その時は、手伝ってあげることが恥ずかしく、何をすることも出来なかった。しかし、このプログラムに参加したことで、どの相手でも優しく接しようと改めて感じられた。年齢関係なくどの歳でも優しくしていけたらなと思う

2つ目は「コミュニケーションをとる」というところである。

小学校のころ、高校生とのグループトークというものがあった。まわりのみんなはたくさんしゃべっているのに、自分から話しかけられないという経験があった。しかし、このプログラムに参加し、年齢も、国も違う人々とコミュニケーションをとることを経験

し、積極的に自分から話しかけ、自信にもつながりとても学ぶことが多かった。他の国の学生のということに関係なく、接することができて本当に良かった。

3つ目は、「人への接し方に不平等さがない」ということである。

特に今回の BETOSE メンバーではそう感じた。メンバーそれぞれが誰でも仲良く接している姿に、その大切さに気づくことができた。

日本では、「人権」や「いじめ」ということが問題となっている。その問題を他国ではどのようにとらえ、解決方法を考えているのか理解することも大切だと思う。小学校中学年のころ、自分の意見が言えず仲良しの友達に流されて、クラスの子を仲間はずれにしてしまったことがあった。自分の判断で行動ができず、いまでもとても悔やんでいる。

しかし、今回交流プログラムに参加したことで、一人ひとりの理解と自分の意見をもつことの大事さを感じた。言語の違いから、相手に自分の意思を伝えることが難しく、普段味わえない大変さを経験した。どれほど自分の意見をしっかり持ち、伝えたいという気持ちが重要なこともよくわかった。

今回の経験を通し、コミュニケーションの大切さと難しさについて、自ら色々体験し、大切な事を学ぶことが出来た。人種差別をしないということを多くの人に知って貰えるよう、また、学んだことを今後活かしていけるようにしていきたいと思う。

『一生の宝』

荒川区立第五中学校 3年

中国、韓国のメンバーと最初に会ったとき、僕の心の中は、緊張とこれから始まる期待でいっぱいでした。まず初めに、韓国メンバーとホテルに向かうバスで会い、お互いに自己紹介をしました。その時、僕は韓国メンバーのコミュニケーション能力の高さに驚きました。そして迎えた歓迎会では、中国と韓国のメンバーとの写真をたくさん撮り、とても楽しく交流することができました。

二日目は、午前是北京赤十字社、午後は博物館を訪問しました。北京赤十字社では、各国の活動紹介をしました。その後、心肺蘇生法を学び、中国や韓国のメンバーで試合をしたりしました。博物館では中国の歴史などを学びました。

三日目は、午前は万里の長城、午後は救急救命センターに行きました。僕が一番楽しかったのは万里の長城です。万里の長城は果てが想像できないくらい長く驚きました。昼には焼き肉としゃぶしゃぶを食べました。その時に同じ日本メンバー（あっくん）と一緒に虫を食べました。食べ方を間違えてしまい、その後二人ともお腹を壊してしまいました。それでも僕にとってはいい思い出です。

四日目は、午前朝陽 youth base、午後海淀公共安全館を訪問しました。朝陽 youth base では、訓練みたいなものを行いました。その日はとても暑く熱中症になるかと思いました。それでもみんなで暑さに負けずたくさん体を動かしました。とても楽しかったです。海淀公共安全館では、災害や起こったときの対処などを学びました。4Dの映画を見たり、火災が発生した時の避難方法などを体験したりしました。

五日目は、午前天安門に行き、午後はお土産を買い、夜は送別会をしました。天安門では、中国メンバーに案内してもらいました。中国メンバーと韓国メンバーと楽しく観光出来て良かったです。送別会では、各国で文化紹介をしました。韓国メンバーのダンスがとてもうまく驚き、そして感動しました。そして僕たち日本メンバーの番が来ました。みんなで円陣を組み気合いを入れ、これまでやってきたすべてを出し尽くしました。その後にはまたみんな写真たくさん撮ったりお土産を交換したり、とても楽しかったです。

そして最終日。韓国メンバーと一緒に空港に向かうバスに乗り、中国メンバーが見送りをしてくれました。その時自分の心の中ではまたこのメンバーで会いたいと思いました。また会えたなら今度は僕たちが東京を案内したいと思っています。

僕は、このプログラムを通してとても成長できたと思います。このプログラムに参加できてよかった。心の底からそう思います。また、もう一度参加して、さらに自分を成長させたいと思いました。

『三首都交流会で学んだこと』

荒川区立南千住第二中学校 2年

プログラムが始まった直後は北京に行くことに不安を感じていましたが、実際に行ってみると北京やソウルのメンバーとすぐ打ち解けて仲良くなる事が出来、不安な気持ちはなくなり北京で過ごす5日間が楽しみに変わっていました。

北京では、さまざまな事を学びました。その中で私は、人工呼吸に使用するマウスシートに驚きました。北京の方から頂いたマウスシートは呼吸を送る部分が不織布的な物で出来ていてとてもエコだなと感じました。日本の物は呼吸を送る部分がプラスチックタイプの物が多く、私は不織布タイプの物を見たのが初めてだったのでエコに関する意識も高いのかなと感じました。

次に、赤十字病院に見学に行きました。そこで医療機器の備わったジェット機、メディカルジェットを紹介されました。国土の広い中国では天候に左右されず、より早く遠隔地まで患者さんを移送出来るそうです。メディカルジェットを見たのが始めてだったので日本にはないのかな？と思い調べてみました。

2017年度より日本でも北海道で本格運用が開始されています！メディカルウイングは空飛ぶICUとして活躍されているそうです。初めて知ることが多く勉強になりました。

観光にも色々連れて行っていただきました。首都博物館や万里の長城に行きました。教科書でしか見たことがなかったので実際に万里の長城を目の前にすると、とても長く終わりがあるのかと思い感動しました。とても楽しかったです。

最後のパーティーでは本当にみんなと仲良くなれたので別れるのがとても寂しく、日本帰りたくない気持ちでいっぱいでした。

今回、この三首都交流会に参加することが出来、私にとってとても良い経験になりました。この経験を持ち帰り我校のレスキュー部に取り入れていきたいです。まずは、救命知識を身に付け、すぐに実践できるくらい練習を重ね、部員全員が高い意識を持って行動できるようにしていきたいです。北京やソウルのメンバーにも感心してもらえくらいレベルの高い活動を増やしていきたいです。

『人と国境を越えて触れ合う楽しさ』

足立区立六月中学校 3年 （サブリーダー）

私はこの3首都交流プログラムに参加して国際交流の楽しさを学ぶことが出来ました。学校の先生からの勧めで応募したところ10人の日本メンバーの1人になることが出来ました。

6月23日結団式。すごく緊張していたのを覚えています。いつもならここで私の人見知りが発動していました。けど、参加するからには自分を変える。その思いを胸に入れて、たくさん自分から話しかけました。高校生の先輩方も優しく話しかけてくれて、楽しく結団式を終えることができました。その日から毎週ある研修日が待ち遠しくて仕方ありませんでした。

「みんながリーダー」みんなで考えたメインテーマをいつも頭の隅に入れ1ヶ月後の北京への準備がスタートしました。その話し合いの中で私は「自分の意見を他の人に伝える事の大切さ」を学びました。研修中はみんなどんどんアイデアを出していて、普段あまり意見を口にしない私も気づいたらたくさんアイデアを出せていました。話し合いってこんなにも楽しいものなんだと気づきました。準備期間が1ヶ月という短い間でしたが、文化紹介、活動紹介、ともに素晴らしものに仕上げる事が出来ました。

そして迎えた出発当日。昼過ぎに北京に到着して、はじめに韓国メンバーと合流しました。「どうやって話しかけよう」「どうやって仲良くしよう」と日本メンバーの間に「不安」という2文字が現れていました。バスに乗ってホテルに向かおうとしたときに韓国メンバーの高校生が「名前は何ですか?」と話しかけてくれたのです。そのとき、凄く嬉しかったです。ぎこちない日本語だったけれども、一所懸命自分の意思を伝えようとしてくれた韓国メンバーは心の温かい人達ばかりでした。初日は両国のメンバーの名前をおぼえるので精一杯でした。夜は中国メンバーの子がみんなで遊ぼうと心優しく誘ってくれて3カ国のみんなで遊びました。右隣には韓国人、左隣は中国人で、とても新鮮な気持ちでした。時には英語、時にはぎこちない韓国語や中国語を使ってみたりと、凄く楽しく他の言語を学べました。中国メンバーの人達は凄くたくさんおもてなしをしてくれました。昼ご飯の食べ方を教えてくれたり、見学場所では建物の歴史を教えてくれたり、また、いろんな場面で助けてもらいました。中でも一番助かったのは5日目のショッピングの時でした。一つ一つ丁寧に説明してくれたり、初めて訪れる店だったので同じ場所を何度も往復させてしまったのにも関わらず笑顔でついて来てくれた子にはとても感謝しています。最後の夜の文化紹介の時の感動は今でもはっきり覚えています。5日間、共に笑い、共に励まし合い、共に学び合った仲間とはなれるのは悲しくて、自然と涙が溢れました。

そして、6日目の別れの日、中国メンバーとはホテルでのお別れとなり、みんなバスが見えなくなるまで手を振り続けてくれました。その時もバスの中でみんな大号泣。空港に着いたら韓国メンバーのみんなが、先に飛行機に乗ってしまう私たちをぎりぎりまで見送ってくれました。

初めて出会ったこの 30 人のメンバーとこんなにも濃い 6 日間を過ごせると思っていませんでした。「北京行ってみない？」と先生がかけてくれた一言から始まった私の JRC 活動。今回出会うことの出来た未知の世界へ飛び込む事の楽しさをこれからも探し続けるために、今後も JRC と関わって行きたいです。

『三首都交流プログラム参加感想文』

大智学園高等学校 3年（サブリーダー）

謝謝・감사합니다・ありがとう

まず、この感想文を読んでいる方へこのプログラムに参加しようか迷っている方、何かに挑戦しようと思っっている方迷わず参加して下さい、挑戦して下さい。成功するかどうかは誰にも分かりません。ですが必ず成長します。

私は最年長としてこのプログラム参加させていただきました。最初は年下の子達が気を使わない居心地の良い環境にしなければいけないと思い沢山コミュニケーションを取ろうと思いました。ある中学1年生の男の子とは同じ部屋で将来の夢や教育について語り合ったり、ある中学3年生と高校2年生の男の子はとても人懐っこくて熱い恋の話をしたり、ある中学2年生の女の子は自分の意見をしっかり主張でき人を喜ばせる事できる、ある中学3年生の女の子は寛大な心を持っていて中国語を教えてもらい助けてもらい、ある高校2年生の女の子2人はとても寛容的で心配事をお互い共有したり、みんな後輩というより弟、妹のような存在でした。同世代の女の子2人は自分とは同い年には思えないくらいしっかりしていて私のお手本のような存在でした。私の中では皆、家族のような存在です。そんな素敵仲間達と過ごした時間は言葉では表しきれないほど幸せな時間でした。北京での出来事は全て忘れる事ができませんし、忘れてはいけません。中国の方、韓国の方は我々日本チームを見てどんな事を学びどんな事感じたのでしょうか。

私は中国の方、韓国の方からそれぞれ学んだ事があります。中国の方からは「常に笑顔」韓国の方からは「今を楽しむ」事を学びました。

ですが、振り返ると中国、韓国、日本のメンバー全員が常に笑顔で今を楽しんでいると私は気づき、自然と愛情というものが生まれてきました。それを感じる事が出来たのならば目標である「言葉の壁を超えて笑顔を咲かせよう」を達成出来たと思います。

もちろん、感じた事や学んだ事は他にもたくさんあります。ですが、この先どんな事があっても「常に笑顔」「今を楽しむ」事は非常に重要な事だと私は思います。私の夢は世界の子供たちが平等に教育を受けてもらう事です。

実際に、子供達と接する時には常に笑顔で今を楽しみながら彼らと接していきたいと思っています。そうする事で彼らも私自身も自然と愛情が湧き、争いのない平和な世界がいつか訪れるのではないのでしょうか。

私はこの感想文を読んでいる皆さんに中国、韓国は本当に素晴らしい国だと人と人が関わる事は本当に素晴らしい事だとほんの少しでも感じてくれれば良いなと思いながら書きました。

あくまでも、私の個人の考えですが今、中国、韓国、日本の三ヶ国の関係だけでなく世界はあまり良い方向に向かっているとは思いません。より良い世の中にする為には一人一人が問題意識を持ち考え行動に移す事が非常に重要な時代ではないかと思っています。

私はこの文書くにあたって素直に感じた事を書いて当たり前的事を書いたつもりです。

しかしながら、一方では当たり前的事を言いづらい世の中になりつつある部分もあるのではないかと思います。もし、そうであるとするのならそれは健全な世の中とは言えないのではないのでしょうか。政治、世の中を変えるのは政治家だとは思いません。それらを変えるのは我々一人一人の意識の問題だと思います。最後に色々な事を学ばせていただいたこのプログラムを実施してくださった赤十字社をはじめ、中国メンバー、韓国メンバー、日本メンバー、通訳の方、安全に目的地まで我々を届けてくれた航空会社、バス会社の皆さん、ここまで私を育ててくれた方々、全ての人に感謝致します。

本当にありがとうございました。

『BETOSE で学んだこと』

都立深川高等学校 2年

長いようで意外と短かった三首都交流。私はBETOSEの三首都交流で日本人メンバーとして参加しました。6月30日に結団式をし、みんながリーダーであるという目標を決めました。初めて日本のメンバーと会ったときは緊張していましたが、事前研修ですぐ仲良くなることができました。中国で発表するダンスや活動紹介の準備も進み中国へ旅立ちました。バスでホテルへ向かうバスの中で近くに座っていた韓国のメンバーの子たちと自己紹介をし合い、少し話しました。私の好きな日本のお菓子が喜ばれてそのお菓子の名前まで聞かれて嬉しかったです。1日目は私も含めてみんな緊張していて行動するときも日本のメンバーと行動することが多かったのですが、2日目くらいからだんだん積極的になることができ韓国の子や中国の子と話しながら歩くことも増えました。中国や韓国の子たちは会った時からフレンドリーな人ばかりで「写真撮ろう!」「このアプリもってる?」などたくさん話しかけてくれて私も頑張ろうと思いました。なので次の日からは自分から話しかけに行きました。中国や韓国の子の学校のこと、放課後は何をしているか、流行っていること、伝統的なお菓子などたくさん話すことができました。日本にはないものもあつてずっと興味津々で聞いていました。

このプログラムで「集団行動」をいつもより意識しました。また、何か間違えたりしてもすぐに直すことの大切さを改めて実感しました。心の中ではわかっているつもりでしたが、いつもは何か間違えてもまあいいかで終わらせていました。しかし、今回でそれを直そうと思いました。私はマイペースであまり時計を見たりしませんでした。ミーティングに遅れたことでミーティングの前に同じ部屋の子とタイマーをセットしたりして遅れないようにしました。私は目が覚めるまでと出かける準備が遅かったので服などは前日から近くにおいて朝バタバタしてもすぐ着替えられるようにしました。いろんな対策をして一番最初に来ることができた日もあつて嬉しかったです。

中国のことも韓国のことも知ることができ、新しい友達もできて中国にもう一度行きたい、韓国に行きたいという思いが生まれました。また、楽しいということだけでなく自分の改めるところも見つけたのでこれからも意識していきたいです。この経験を忘れずに今後もいろんな活動に力を入れていきたいです。

『BETOSE を振り返って』

下北沢成徳高等学校 3年 （リーダー）

今回の三首都交流プログラムを通し、一生忘れられない思い出ができました。

プログラム初日は言葉や文化の違いにワクワクしつつも緊張を感じていました。しかし、中国と韓国のメンバーと対面し、少し会話をするとみんなとてもフレンドリーですぐに仲良くなれました。それでも言葉の壁は存在していて、伝えたいことがうまく伝わらなくて、伝えられない自分が情けないと感じました。しかし、中国と韓国のメンバーが翻訳機を使いながら一生懸命伝えてくれることがとても嬉しくて、私も翻訳機に頼ったり、頑張って英語を使ったりしながらたくさんコミュニケーションをとりました。どうしたら上手く伝えることができるのか六日間を通してすごく考えました。プログラム中、私たちはお互いに自分の国の言葉を教え合いました。中でも他国メンバーが翻訳機などで調べながらも日本語を使って話してくれたことに感動しました。そこで私も知っている中国語を使い「我

现在学习中文。请教给我中文吧！」（私は今中国語を勉強しています。中国語を教えてください！）と思い切って中国語で話しかけました。すると中国メンバーの子達はみんな笑顔で「好啊！」（いいよ！）と言ってたくさんの単語や言葉を教えてくれました。翻訳機はとても便利だけれどやっぱり私は語学をもっともっと勉強して多くの国の言葉を話せるようになりたいです。英語、韓国語、中国語、それ以外にもいま私には学びたい語学がたくさんあります。二か国との交流でこれから先、学びたいことがより明確になりました。

また、中国の赤十字に関係する施設や建物を実際に訪れ、話を聞いたことは非常に貴重な体験だったと思います。海外での赤十字活動について理解が深まりました。中国メンバー、韓国メンバーとRCYやJRCについて話し情報の交換をすることも出来ました。中国の観光地では中国メンバーがここはどういう建物でいつ誰が建てたか、など詳しく教えてくれてすごく勉強になりました。そして今、中国・韓国・日本の間には政治的な問題が多くあり、ニュースでも国同士の問題などについてよく目にします。しかし私は国と国の間では政治的な問題を抱えていても民間ではとても親日な人が多いと改めて感じました。これから先、日中韓関係が良い関係に発展していくように願っています。

最後に、プログラム五日目の各国パフォーマンスの時間が最も印象深かったです。中国・韓国のパフォーマンスはとてもかっこよく、それぞれの国の文化が現れていてすごく楽しかったです。三ヶ国のとりを務めることになり、すごく緊張しました。それぞれが忙しい合間を縫って練習してきたダンスが終わり、失敗もあったけど無事に終わった安心とプログラムも終わりに近づいていることへの寂しさでたくさん泣いてしまいました（笑）でも泣いていたのは私だけでなく、寂しかったのも私だけではなかったです。このプログラムに参加したみんなが自分と同じようにこの六日間がかけがえのないものだったと感じていることが伝わってきました。泣きながら笑ってみんなと舞台上で歌ったことは本当に思い出深いです。たった六日間で想像を超えるほど仲良くなって、気がついたら離れたくなく

て、こんなにあっという間で内容の濃い六日間を過ごしたのは人生で初めてだったと思います。

私たちが六月に決めたメンバー目標、”みんながリーダー”～言葉の壁を乗り越えて笑顔の花を咲かせよう～。みんながリーダー。みんなにたくさん助けられながらリーダーを務めることができ、私自身とても勉強になり、良い経験になりました。日本人メンバーのみんな、日本赤十字の先生方にはとても感謝しています。喜八、すっちゃん、アッキー、のんちゃん、まる、諒多、なっちゃん、あっくん、そんちゃん、本当にありがとうみんなのこと絶対忘れません。

北京で過ごした六日間、たくさん考えて、たくさん泣いて、たくさん笑って、とても幸せな時間を過ごしました。BETOSEは国際交流の楽しさを改めて私に教えてくれました。

『言葉にならない追憶』

巣鴨高等学校 2年

「言葉にならない追憶」これが今回のプログラムを飾る私の言葉です。色んなことがありすぎて言葉では表し尽くせません。そんな私の追憶をできるだけ言葉にしてみようと思います。

はじめに、三首都交流プログラムでは、実践目標のひとつでもある国際理解と親善の実現と赤十字への理解促進を目標としており、私の考えの中ではそれらを十分に達成できたと考えております。本プログラムでは各国の活動紹介・文化紹介のほか、様々な交流の場や赤十字活動を学ぶことができ、今後の赤十字活動を行う上で大きな礎となりました。また、同じ活動でも各国で行動理念が異なっていたり、考え方故の相違が存在し、とても勉強になりました。また、私のインタビューテーマでもあった各国の進学事情はまさしく十人十色で話しをしていてとても楽しかった思い出があります。

北京での見物は私が思い描いていた物よりはるかに驚愕させられるものばかりでした。行く所全てが新鮮で、新しい世界観が広がっていました。首都博物館では、中国の歴史を模したものがいくつもあり、中国の持つ美しい工芸品や伝統を目の当たりにしました。歴史と一言で表しても、その中で行われてきたことは無数にあり、改めて中国の持つ影響力が国際的にも大きいのだなと感じることが出来ました。当然その中には日本との関わりも描かれていて、いつも主観的に見ていた日本を客観視することで新しい見方を持つことができました。他には、北京市内を管轄している救急センターを見学させていただきました。そこでは市内で起こった事故が逐一に処理され、用途別に使用される救急車の見学などを行いました。また、総指揮をこの場で行なっていることもあり、まさしくドラマのワンシーンのような光景をみることができました。

多くの事を経験し、学ばせていただいた6日間ですが、その中でも私が一番印象に残ったのは5日目のフェアウェルパーティーでした。各国が発表する文化紹介は出発前の事前研修から沢山の準備をしていたものの、完璧ではありませんでした。しかし、本番ではミスもあったものの、達成感とともに莫大な楽しさを感じることが出来ました。発表内容が規模の大きい物であったこともあり、周囲からも高い評価を得られたことが印象に残っています。

赤十字の父であるアンリー・デュナンはこんな考えを生涯を通して貫いたと言われております。『人類はみな兄弟』。このプログラムを通じてようやくその言葉の意味を理解することが出来ました。日本でも一期一会という言葉があるように、人と人の関わりは時として大きな力を持ちます。人見知りな私に各国のメンバーは積極的に接してくれて、私自身が大きく成長するきっかけを与えていただきました。

最後になりますが、この三首都交流プログラムは自らを、そして私の周囲を大きく変化させてくれました。どれだけ自分の気持ちをこの短い報告書で伝えられたかわかりません。しかし、自分自身の追憶の中にははっきりと北京で過ごした6日間の思い出が刻まれている

ます。こうして出会うことのできた各国のメンバーとの絆を大事にしつつ、これから自分が人のために何ができるか考えていこうと思います。赤十字の職員をはじめとした引率の方々、そして何より頼りにさせてもらった日本メンバーには感謝してもし尽くせません。どうかこの人々や国々を結ぶ縁が永遠に続く事を祈っております。

『プログラムを通して』

桜丘高等学校 2年

私は、一昨年このプログラムに参加した先輩からお話を聞き、「自分も行ってみたい」、そんな気持ちから応募をし、参加させていただくことになりました。

海外に行った経験もないし、英語は大の苦手科目。本音を言うと、最初は不安しかありませんでした。しかし、終わってみれば、楽しい思い出がたくさんできた6日間でした。

私が1番印象に残っているのは5日目です。事前研修のときからみんなで一生懸命練習してきた文化紹介の日です。私たち日本メンバーの発表では、盆踊りをその場にいるみんなで行い、前列の2人が徐々にヲタ芸化していくラジオ体操をして、最後に「君の名は」のスパークルをヲタ芸で披露しました。とても緊張しましたが、終わった後のメンバーの清々しく達成感で満ち溢れた顔は今でもはっきりと覚えています。また、見ていた韓国メンバーや中国メンバーが、「すごかった」とか「感動した」、「きれいだった」など、たくさん褒め言葉をくれたりして、とても嬉しかったです。この文化紹介をするときが、みんなでお越し最後の夜だったので、みんなの発表を見ながら楽しんでいる気持ちがある反面、もうこれが終わったらあとは帰らなければならないんだと、とても寂しい気持ちになりました。

まだ北京に着いたばかりの頃、私は他国のメンバーと話すとき、正しい文法を使った完璧な英語で伝えようとしていました。特に首都博物館の見学するとき、私は韓国メンバーと日本メンバーの何人かでまわっていたのですが、何か聞きたいことがあるたびに、日本メンバーにこの英語で伝わるか確認したり、翻訳機で調べたりしていました。でもそんな必要はなかったのです。考えてみれば、韓国メンバーは、何も見ずに、自分の言葉で答えてくれていたし、翻訳機は本当にお互いの伝えたいことが伝わらなかったときだけで、ほとんど使うことはありませんでした。そこで私は気がついたのです。たとえ伝えたいことが自分の中できれいに英訳できなくても、高校生で習った複雑な文法を使わなくても、知っている単語を並べてみたり、中学生のときに習った簡単な文法を使ったりするだけで、会話ができるということに。これに気づいてから私は、万里の長城などの観光をするときも、赤十字救急センターで学ぶときも、その場で感じたこと、思ったことをそのまま自分の言葉で伝え、共有するということが心げました。そうしてみたら、たとえ住んでいる国や、普段使っている言葉が違って、「今、私は言葉の壁を越えて話すことができているんだ！」という喜びの気持ちを抱くことができました。それでも「これを話したい、こう伝えたい」と思ったとき、なかなか言葉が出てこなかったり、単語も分からなかったりと、伝えたいことが伝えられないもどかしさがありました。だから、これを機に英語の勉強を今まで以上に、もっと努力しようと思いました。

私たちの目標は「みんながリーダー～言葉の壁を越えて、笑顔の花を咲かせよう～」でした。振り返れば、みんなリーダーのように積極的に行動し、言葉の壁なんてすぐに越えて、毎日笑顔が絶えない、そんな6日間だったと思います。BETOSEのメンバー30人や、ボランティアの方、先生方、このプログラムに関わった人たちは国境を越えた絆が生まれ

たと私は思っています。今韓国や中国と日本はあまり良好な関係とはいえません。韓国では反日のデモがさまざまな場所と方法で行われています。また日本人の中にも、中国人はマナーやルールを守らないと勝手な偏見を持って多くいます。でも、私が出会った韓国人や中国人の中にそんな人は一人もいませんでした。だからみんなが勝手な偏見でSNSに書き込んだり自ら壁を作ったりしてしまうのはとても勿体ないことだと思いました。

私がこのように考えることができるようになったのは、3首都交流プログラムに参加させていただいたおかげです。事前研修から始まり、北京に着いてからも様々なことがありましたが、このメンバーで行くことができたこと、こんなにも素敵な経験をすることができたこと、とても嬉しく思っています。3首都交流は私の一生の宝物です。赤十字の職員の方々を始め、このプログラムを支えて下さった全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

『言葉の壁』

八王子学園八王子高等学校 3年

私が三首都交流で学んだいちばん大きな事は、すごく高く見える言葉の壁って、実はびよんっと飛び越えられる高さだし、交わっているのは、国と国ではなく、人と人ということでした。

私の中で、実際に参加するまでずっと不安だったことは、やはり言語。過去の参加者の話を聞く限り、すごく楽しそうだし、私自身もニコニコしていればなんとかなる！結局共通言語は笑顔！と思ってはいたものの、やっぱり、色々なことについて議論したりすることは難しいし、国同士で固まってしまうのではないかと思っていました。不安は結局出発まで消えることなく、初日になり、北京についてからも緊張と不安でいっぱいでした。ですが、実際韓国メンバー、中国メンバーに会って、毎日過ごしていくなかで、なにを話せばいいかわからなくなったら、インタビューをしたし、伝わらなかった時はグーグル翻訳に頼って会話を続けたし、不安に思う必要が本当になかったなと思うことができました。最終的には、将来どんなことがやりたいかを語り合ったり、様々な話が出来たことによって、一週間にも満たない短い期間であるにも関わらず、心から信頼し、尊敬できる友人を作ることができました。きっとこの友人関係は、将来困ったときに、助け合ったり、アドバイスしあえたり出来る素敵な関係になったと思うし、頼れるときは頼りたいなと思える、大切な友人になりました。

また、私はお互いが母国語ではない言葉を読まなければいけないからこそ、この関係性が成り立ったのではないかと思います。なぜなら、もしこれが、片方は母国語、もう片方は外国語という条件であれば、外国語を話す方は、ある程度のクオリティで、工夫をして読まなければならないと思ってしまったり、周りの言っている事が自分だけわからないと不安に思ってしまうからです。でも、みんなが得意ではない外国語を話すことによって、自分がわからない言葉を読んでも、こんなことを言っているのかな？と予測して、特に気にすることもありませんでしたし、お互いに頑張って聞き取ろうとしたり、理解しようとする努力は本当に大きかったと思います。

私が三首都交流について初めて知ったのが、中学校1年生の時、部活の鍵にキーホルダーがついていたことでした。それから高校2年生まで、何回か申し込もうとしましたが、過去の私では面接にも合格してないだろうし、行っても特に収穫もなく帰ってくるだけだったと思います。高校3年生、18歳になり、政治面で問題があることも知っているなかで、今だからこそ、感じられる気持ちや体験ができ、素敵な友人にも出会え、本当に素敵な経験にすることができました。この経験を、経験で終わらせることなく、今後に繋げていきたいです。

『みんながリーダー
～言葉の壁を越えて、笑顔の花を咲かせよう～
三首都交流プログラムへの取り組みから見えてきたこと』

荒川区立南千住第二中学校 主任教諭

6月末の結団式で緊張感を感じたのはどうやら私だけだった。中学生4人、高校生6人計10名の生徒は初めから和気合々と馴染んでいたように見えた。中1から高3の年齢差は6歳もある。この集団がこれからチームとしてどのように協力をして活動を進めていくのか、楽しみばかりの日曜日が毎週続いた。

リーダー、副リーダーも順調に決まり、団目標決めには十分に時間をかけて「みんながリーダー ～言葉の壁を越えて、笑顔の花を咲かせよう～」に決定した。行動目標も具体的に決めることができた。そして、いよいよ、個人として取り組む事前課題と2つのグループに分かれての活動発表、文化紹介の準備が始まった。人間関係もまだ浅い中ではあるがアイデアを出し合って、より良いものを目指した。

活動発表においては、和文英訳とパワポ作成では高校生が実力を十分に発揮し、本番でも素晴らしい発表となった。文化紹介においては、当初は踊りこなせるのか不安がよぎった。しかし、個々の自宅での練習の成果と中学生が期待以上の才能を発揮し、本番では、感動のパフォーマンスとなった。市川さんには音響、照明などきめ細かく準備をしていただき、そのおかげがあつての大成功だった。生徒は素晴らしいチームワークでこの2つの発表から達成感を体感することができた。5日目の夜のミーティングでは10人一人ひとりの成長がうかがえる感想を聞くことができた。どの生徒も言葉の壁を越えて、笑顔の花を咲かせることができた。

結団式から5回の研修会を通して生徒同士は良好で円滑な人間関係ができ、東京代表として北京での使命は十分遂行出来たと言える。更に、今後の振り返りや、派遣報告を機にお互いに共有し合い発信していくことがこのプログラムの取り組みの意義と考える。10人一人ひとりの成長を今後の JRC 活動に生かしリーダーとして貢献することを強く願うばかりである。団の目標を個々の目標として今後も活動を続けること、それが出来て初めて団の目標が達成できたと言える。そして今回のプログラムの「国際理解・親善」の目的も達成できたと言える。

最後にこのプログラムの東京代表団指導者に任命して頂き貴重な経験をさせていただいたことに心より感謝を申し上げたい。市川課長にはきめ細かな心遣いとリーダーシップを発揮して頂いた。鈴木さんには1回目の研修会から用意周到に指導をしていただいた。筆内さんには生徒の心にも寄り添って頂き10人全員が心身共に健康に帰国できた。感謝を申し上げたい。